慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	第1回 実験美学セミナー(第127回バイオサイコシンポジウム共催)「描くことの進化と発達の起源を探る～チンパンジーとヒトの幼児の描画行動から～」
Sub Title	Exploring genesis of evolution and develpment of drawing : the drawing behavior in chimpanzees and human children
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	活動報告書 Vol.4, (2010.) ,p.29- 29
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20110300-0029

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

10

第１回 実験美学セミナー（第127回バイオサイコシンポジウム共催）「描くことの進化と発達の起源を探る～ チンパンジーとヒトの幼児の描画行動から～」

Exploring genesis of evolution and development of drawing— the drawing behavior in Chimpanzees and human children

開催日　2010年12月６日
企　画　川畑秀明（脳と進化班）
講演者　齋藤亜矢（京都大学野生動物研究センター、東京藝術大学）

2010年12月６日、三田キャンパス内で京都大学野生動物研究センターおよび東京藝術大学の研究員齋藤亜矢博士をお招きして、第１回実験美学セミナーが開催された。当日は本学内外より多数の参加者が集まった。齋藤博士は、京都大学霊長類研究所の天才チンパンジーとして知られるアイちゃんなどを対象に描画行動を実験的に研究してきた。同時にヒトの幼児でも同様の観察を実験的に試みている。

今回の発表では、齋藤博士が長年取り組まれてきた実験結果から、絵を描くことの認知的な基盤とは何かという大きなテーマについてお話いただいた。描画行動の進化・発達的な起源を、チンパンジーとヒト幼児を対象とした比較認知科学的な研究である。絵筆を器用に操作しながら具体的な物の形（表象）を描こうとしないチンパンジーと、なぐりがきから表象描画に移行する時期のヒトの相違はどこにあるのか。刺激図形を用いた課題からはイメージの想起や補完との関連が示唆された。

チンパンジーでも筆遣いのタッチや色の配置などの特徴、いわゆる画風のようなものがある。なぐり書きのようで、しかしそこには「個性」を感じさせる。しかし、チンパンジーは具体的な物を描くことはない。それを、齋藤博士は、線をひく手の動きを上手く調整できないという技術的な問題、何らかの認知的な問題、あるいは描こうとしないだけという意欲の問題としてとらえ、ヒトの幼児の描画行動と比較しながら明らかにしていこうとする。顔のパーツが欠けている線画に、どのように線や点を書き加えていくかをみる「画竜点睛」課題からは、チンパンジーの線を調整して描くための技術的な問題よりも、「ないもの」を補うことができない、という認知的な問題の方が関わっていることが分かってきたという。

チンパンジーとヒト。それらが進化的に分れたのは600万年ほど前だ。「描く」という行為から垣間見える心の進化とは、表象がどのように獲得されていたかということであり、その問題提起は、多くの参加者の心をつかみ、活発なディスカッションが行われた。

The 1st seminar on experimental aesthetics was held on December 6th at Keio University. Dr. Saito from Kyoto University had a talk about her studies on drawing behavior in Chimpanzees and human children based on comparative cognitive science.